

中国社会文化学会・例会のお知らせ  
(2019年度・第1回)

日時：2019年2月9日（土）午後3時から6時

場所：東京大学本郷キャンパス法文1号館2階215番教室

報告者：李婉薇先生（香港教育大学准教授、東京大学外国人研究員）

論題：「清末広州『時事画報』の図像と言語」

言語：中国語（通訳あり）

報告概要

一九〇五年に創刊された『時事画報』は広州で最初の石印画報であり、清末の画報の中において極めて過激な革命派の雑誌であった。創始者は高剣父、潘達微、何劍士などで、みな広東人であり、専門の画家であると同時に、革命思想を持っていた。高剣父は画報の創刊にあたって、方言と図像という通俗的な伝播手段を結合させて、帝政をくつがえす思想を宣伝し、当地の悪習を取り除くことを志した。

『時事画報』の「風刺画」は成熟した技術をもち、思想的にも鋭敏だった。それに加えて広東語のスローガンを用い、説唱の雰囲気を持ったため、生气あふれる文明の武器になった。それに対して「風俗画」と「時事画」は、多くの場合文言による語りと議論であった。このように、『時事画報』は異なったタイプの図像と異なったスタイルの言語を組み合わせしており、その相互関係はきわめて複雑であった。また近代の日中文化交流のため、清末の画報は日本の山水画と浮世絵の影響を受けたが、『時事画報』も例外ではなかった。創始者の一人である高剣父が画報創刊後まもなく日本に留学したため、彼の絵によって、『時事画報』に日本絵画の痕跡が残された。

事前登録不要・非会員来聴歓迎